

「ふくし」とは「ふだんの 暮らしの しあわせ」

社会福祉法人じりつ 理事長 岩上洋一

日本福祉大学教授の原田正樹さんは、「ふくし」の意味を「ふだんの 暮らしの しあわせ」と伝えています。福祉は、自分とは関係のない他人事ではありません。誰もが自分らしさを大切にできて、ごくあたりまえに生活できる社会をつくっていくことです。そんな「ふだんの 暮らしの しあわせに」一緒に携わってみませんか。

福祉の分野によこそ〜高さでなく深さに生きる〜

皆さんは今までどのような価値を大切にしてきましたか。世の中はずいぶんと多様性を認める社会へと変わってきました。でも、そうは言っても、一流と言われる大学を出て、これまた名前の知られた企業に勤め、出世して、お金にある程度余裕のある生活を送ることを望んでいる人も少なくありません。あるいは、自分とはとかく、我が子にはそうあって欲しいと望むのかもしれませんが。皆さんはすでにお気づきのように「地位」と「名誉」と「お金」があるからと言って幸せになれるものではありません。

福祉の世界には「高さ」ではなく「人間の深さ」があります。現代福祉の父、糸賀一雄さんは「この子らに世の光を」でなく「この子らを世の光に」という言葉を残しています。皆さんが、障害のある一人ひとりとかかわりをもつこととは、人間の奥深さ、そして尊さを学ぶことだと思います。

福祉の仕事をするうえで大切なこと

福祉分野も含めて、社会貢献の高い分野で働く人のなかには、知らず知らずのうちに自分への評価が低いため、他人から求められることで心の隙間を埋めてしまう人も少なくありません。皆さんはどうでしょうか。それが良い悪いではなく、まずは、自分の特徴をチェックしてみてください。そして、「私が自分らしく生きること」「他人の評価でなく自己肯定感を高めること」を心がけておきましょう。

福祉の仕事するうえで大切なことですが、ズバリ!人間性、社会性、そして専門性です。専門性は、今は身に着けていなくても大丈夫です。これから学んでいきましょう。それでは、人間性と社会性はどうでしょう。清廉潔白であれということではありません。むしろ、皆さんの人生の経験が生かせる仕事ということです。

さて、ここで質問です。皆さんは、人生の中で誰かに助けてもらった経験はありますか。助けてくれた相手の態度、言葉、その時の自分の気持ちを思い出してみてください。「真剣に聴いてくれた」「一緒に泣いてくれた」「気持ちをわかってくれた」等々。きっと、特別に何かをしてくれたというよりも気持ちをわかってくれてほしかったのでないでしょうか。福祉の分野では「傾聴」「共感」と言いますが、まずは、自分がしてもらってよかったことからスタートしてみましょう。もちろん、「傾聴」「共感」は万能ではなく、例えば発達障害などで「情報の混乱」が生じている人には、適切な「答え」も必要になります。まあ、これは応用編です。

心のグラブとリスpekt

私は、主に精神障害のある方を支援してきました。精神障害とは、何らかの脳の器質的変化あるいは機能的障害が起こり、精神症状、身体症状などが見られる状態です。風邪をひいて熱が出る、アレルギーで湿疹がでるのと同じで、脳内で生物学的な変化が起こって、一連の症状が引き起こされているものです。精神障害と言っても、その症状や特性は多岐にわたります。

精神障害のある A さんに皆さん求職者へのメッセージを頼みました。

「僕の病気は、統合失調症ですが。悩み事が深みにはまる感じです。皆さんも悩み事で食欲がなくなったり、眠れなくなったりすることがあると思うんですが、それがずっと続いちゃうんです。例えて言うなら素手でキャッチボールをしている感じかな。心のグラブがないので、相手の言葉や反応が僕の心を直撃しちゃうんです。でもね、薬を飲むこと、仲間ができること、皆さんに気持ちをわかってもらうことを続けていくと、なんか自分は大丈夫だと思えてくるんです。そんな時、僕には心のグラブができているんだと思います。」「皆さんは、スマホや携帯電話を使っているでしょ。ちょっと前は、想像つかなかったですよ。精神障害も同じじゃないですか。メンタルヘルス、精神疾患、精神障害、もう、身近なことだと思います」

私は、人とかかわる仕事をする上で最も大切なこと、ここでは、A さんの心のグラブになるためにですが、それは、相手をリスpektすることだと思っています。

悩みながらスキルアップ

私の法人では、入職後に数年先輩の職員を教育担当者として配置します。新入職者研修では、座学で法人の理念、成り立ちと歴史、事業内容の説明を行います。その後、配属先のオリエンテーションののち2週間程度、現場の仕事を体験します。そのうえで、1か月間にわたり、法人内のすべての事業所に出向いて研修を行います。ここでは、事業内容を学ぶだけでなく、職員や職場の雰囲気にも慣れてもらうねらいがあります。

配属先では、上司と相談して、今年度の仕事の取り組み方等の個人目標を設定します。その後は、上司と毎月、モニタリングします。職場内には、毎日の朝夕に障害者の個別支援にかかわるミーティングがあり、月に1回の事業内容と個別支援にかかわる定例の会議があります。入職後、皆さんが、孤立したり、一人で困りごとを抱えこんだりしないよう、チームで支援する体制をつくっています。ただし、対人サービスは、悩むこと、考えること、相談することもスキルアップのうえでとても重要なことです。希望者は、内部に加えて外部のスーパービジョンが利用できます。その他、法人全体の研修（アセスメント、虐待防止、意思決定支援、実践研究）を通して研鑽します。皆さんが福祉の現場でやりがいを感じながら仕事ができるよう、一人ひとりにあったスキルアッププログラムを作成します。

実務経験を積んで指定の研修を受講すると相談支援専門員やサービス管理責任者になることや、養成校に通って社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を取得することも可能です。

心豊かに生きること

福祉の仕事をするとは、自分の生き方に新たな価値を見出して心豊かに生きることだと思います。皆さんの考えや経験を「ふだんのくらしのしあわせ」をつくるために生かしてください。